阪神大震災時の風呂に関する新聞生活情報の分析

Analyse of Newspaper Information about a Bath at Kobe Earthquake

三　石　博　行

龍谷大学経済学論集　第40巻　第1号（2000年6月）抜刷

阪神大震災時の風呂に関する新聞生活情報の分析

Analyse of Newspaper Information about a Bath at Kobe Earthquake

三　石　博　行

In order to utilize effectively the social information that has been accumulated, this article will address two subjects. The first subject pertains to a method of sociological analysis standard concerning data accumulated via a digital databases by the information retrieval of the complete sentence. The second subject is an analysis of the newspapers information in the reference to the earthquake victim's needs. In order to examine the above-mentioned subject concretely, we analyzed the newspapers converge concerning the victim's bathing practices referenced in the databases between January 17th 1995 to January 16th 1996.

Keywords: The great catastrophe of the Kobe Earthquake, Newspaper information, The daily living information about the bathing, Analysis standard of the database accumulated by the information retrieval of the complete sentence, The first daily living information, The second daily living information

キーワード：阪神・淡路大震災，新聞情報，風呂に関する生活情報，全文検索データの分析基準，一次生活情報，二次生活情報

はじめに

この小論では，主に二つの課題に関する問題を設定する。

第一の課題は，デジタルデータベースを活用する社会学的分析の方法である。情報社会の発展と共に，デジタル化された社会情報が多く発生している。これらは社会情報資源である[1)]。この資源は，社会システム運用のために，再利用することができる。蓄積された社会情報資源の有効利用によって，さらに効率よく社会システムを運営することができる。しかし，社会学の中で，これらの社会情報資源を活用する方法や，それを分析する方法はまだ確立していない。従ってここで新聞社のデジタルデータベースを活用して得られる社会情報の分析に関する課題を取り上げる。

第二の課題は，新聞が取り上げる生活情報の内容に関する問題である。一般に，地域性や具体

1) 社会情報資源とは単に文章化されたデジタルデータのみでなく，デジタル化されたすべての情報，例えばガス，電話そして電気などの使用料金や販売情報なども含むと考える。これらの情報は，それぞれが全く関係無くその情報源に蓄積されている。しかし，データマイニングなどの方法によって，そこに何らかの関係を確立することによって独立して存在するかのように見えた情報から相互関係に因って生み出された新たな情報が生じることもある。

的要請と結び付いた生活情報は，新聞記事として記載しにくい。しかし，震災時には新聞はそれらの情報を提供してきたが，その情報の質が問題になる。新聞情報が被災者の即時的で緊急を要する要求をどこまで充たすことが出来たかが課題にされている。この問題を考察するために，新聞に記載された「風呂」に関する生活情報について調査した。この論旨で，地域性や具体性を必要としている生活情報の伝達の手段としてのメディア・新聞の在り方の点検を試みる。

以上の課題を具体的に検討するために，毎日新聞社が1995年1月17日から1996年1月16日までの記載した「風呂」に関する生活情報を，新聞社のデジタルデータベースから全文検索で出力して，その内容を分析した。また，データベースから可能な限り漏れなく情報を拾い出すために，入力する検索用語に関しては，毎日新聞社データベース部の助言を受け，阪神大震災 and（ふろ or ぶろ or 風呂)」と決定した。そして，1995年1月17日から1996年1月16日までのデータベースの中から検索用語に該当する225件の記事を出力した。

I 生活情報の質を決定している4つのカテゴリーの判断基準

生活情報の価値を持つ記事

ふろに関する有効な情報を提供していると判断できる記事は，見出しのなかにも風呂に関係する用語が使われていたり，また本文でも風呂に関する文字数が全体の文字数に比較して高い割合を示している。文脈のなかで明らかに生活情報としてのふろに関する情報を持つものを「生活情報としての価値を持つ記事」と判断する。

例えば，1995年1月20日金曜日朝刊の「阪神大震災，30万人に救援と励ましを」の1276文字の記事の中に，「ふろの不足も深刻になっている」という55文字，4.3%の情報量と相対的に少ない情報であるが，この文脈は，被害の状況で風呂の不足が問題になっている現状を記載し，早急にその対策を取るべきであると提示しているため，これを生活情報としての価値をもつと判断した。また，1995年2月9日木曜日朝刊「希望新聞」の中の中見出し「浴場」の記事は271文字のすべてが「阪神大震災に関する風呂の生活情報」である。この記事は典型的な「生活情報としての価値を持つ記事」と評価できる。

生活情報の価値の少ない記事

「ふろ」は確かに生活情報としての意味を持つが，「ふろ」がその文脈のなかで，他のものを補足的に説明するために使われている場合がある。そのため，「ふろ」の生活情報に関する重要性や価値は低くなる。これを「生活情報の価値の少ない記事」と判断する。

例えば，1月21日土曜日夕刊，見出し「阪神大震災，兵庫県南部地震　西宮・仁川―大阪同行ルポ」の記事の中に，「ふろにも入れない」とか「ふろだけはどこかに行って入りたいですね」という表現がある。この文脈は被災者のふろに関する話を書いたものである。この文脈の中では，「被災者」が主語となっており，その行動や欲望として「ふろ」に入りたいことが記載されてい

る。つまり，被災者の被害状況や要求として「ふろ」の話があるため，「ふろ」は補足的説明のために使われていることになる。従って，この記事は「阪神大震災に関する風呂の生活情報」は含まれてはいるが，それが風呂に関する生活情報としての価値を十分持っているとは評価できない。

また，5月13日土曜日夕刊，見出し「ふろんてぃあ」の「大阪ガス OB 応援団，震災で大活躍」の記事の文脈に「仮設ぶろ……の受け付け……は延べ250人の OB が分担，……4月中旬までに延べ1200人が駆けつけてくれた」という「ふろ」に関する45文字の情報がある。この文脈の中では，「仮設ぶろ」は大阪ガス OB 応援団のボランティア活動内容である「仮設ぶろの受け付け」を説明するための情報であり，風呂に関する生活情報としての価値を十分に持つものであるとは思われない。

さらに，新聞記載時からすでに過去の話しとなっている生活情報も生活情報の価値を十分持っているとは考えられない。例えば，10月13日金曜日朝刊「希望新聞」の「谷こゆき　お客さん戻る日，待ち望み」の記事の中に，7文字の「ふろ場まであるのには驚きました。」があるが，これは「谷こゆき」さんが書いた「被災地からの手紙」の一部分である。「立派な二階建てや三階建て」の建物に付いていた設備としての「ふろ場」は，「ふろ」に関する生活情報と言える。しかし，この「ふろ」は，手紙が書かれた時，つまり震災発生から9カ月間の時間が過ぎている1995年10月からして，過去の話しであるため，現在のふろの情報ではない。これも，風呂に関する生活情報としての価値を十分に持つものであるとは判断できない。

生活情報の価値を持たない記事

検索用語「ふろ」が生活情報として，文脈のなかでまったく使われていない場合には，「ふろ」は生活情報の価値を持たないと判断される。しかし，この判断は「ふろ」の意味を文脈全体から理解しなければ不可能であり，その解釈も個人的に変化する可能性があるため，その判断は極めて難しくなる。そこで代表的な例を以下に示す。

例えば，1月20日金曜日朝刊「阪神大震災，兵庫県南部地震　大阪・港区で死者新たに2人」の記事の中に，「自宅のふろ場付近で倒れて死んでいるのを，……心配して訪れた二男がみつけた」の「ふろ」にまつわる52文字の文脈がある。この「ふろ」は，震災の被害者が死んでいた場所の説明として使われており，「ふろ」は生活情報の意味を持たない。

また，6月10日土曜日朝刊「希望新聞」の「助け合いの大切さ分かった」の記事の中に，「2月に広島へ引っ越して……おふろの心配がなく」の19文字の中での「ふろ」は被災地とは関係無い広島の「ふろ」であり，この場合も「ふろ」は阪神大震災に関する生活情報ではないと判断される。

さらに，7月14日金曜日朝刊「阪神大震災，希望に向かって，料理研究家・阪本廣子さん」の記事の中に，「震災では自宅のふろおけが動いて部屋が水浸しになった」と記載されている。この「ふろおけ」は，「ふろ」の役割，つまり衛生や健康維持のための機能の一つとして語られて

いる訳ではなく，浸水の原因として語られている。このことから，「ふろおけ」は生活情報「ふろ」の意味とは関係ないと言える。

このように，使われている用語「ふろ」は阪神大震災と無関係にあるか，もしくは仮に関係していても，生活の機能としての「ふろ」の意味を全く持っていない場合は，生活情報の価値を持たない記事と判断する。

生活情報に関係ない記事

検索用語「阪神大震災 and（ふろ or ぶろ or 風呂)」よって出力される記事の中には，検索用語・(ふろ，ぶろや風呂）と同語を含む全く別の意味，例えば「ふろしき」，「おおぶろしき」や「蒸しぶろ状態」等の用語のような単語を持つものもある。これを全文検索によって紛れ込んだごみの情報と呼ぶ。

例えば，1995年２月18日土曜日大阪本社出版，朝刊13面の「希望新聞」の中の「炊き出し」の記事の中に，「ふろふき大根の炊き出しを行う」の文書がある。「ふろふき大根」も「ふろ」の文字を持つため検索に掛かってしまう。このように225件の記事の中には，「大ぶろしき」，「まいぶろんの会」，「ふろしき」，「蒸しぶろ状態」，地名である「風呂之」やコラムの名前である「ふろんてぃあ」などが「ふろ」の検索用語に引っ掛かって出力される。これらの記事は，阪神大震災時の「ふろ」に関する生活情報を持たない記事であり，「ふろ」にまったく関係のない情報であると判断される。

生活情報の４つのカテゴリー

デジタル化された情報を全文検索した場合，検索用語に掛かる全ての記事が出力される。その記事は，必ずしも検索目的を充たすものではない場合が発生する。そこで，上記の４つの分類を基準にして，ふろに関する生活情報のカテゴリーを以下のように定義する。

Ａのカテゴリー・「生活情報としての価値を持つ記事」

Ｂのカテゴリー・「生活情報の価値の少ない記事」

Ｃのカテゴリー・「生活情報の価値を持たない記事」

Ｄのカテゴリー・「生活情報に関係ない記事」

この４つのカテゴリーの中で，検索目的を充たすものは，例えば「ふろ」に関する生活情報の場合，Ａのカテゴリーのみであると判断する。

II 情報量の決定の基準

文字数と情報量の決定

カテゴリーＡに分類した生活情報としての価値を持つ記事の情報量に関する定量の仕方に関する基準を決める必要がある。検索用語「阪神大震災 and（ふろ or ぶろ or 風呂)」に該当するカ

テゴリーAの記事の中にも，「ふろ」の二文字しかない場合が生じる可能性もある。そこで，生活情報としての価値を持つと判断する基準は，単に情報の質に関する判断だけではなく，情報量に関する基準も必要であると考えられる。生活情報としてのふろに関する情報量を測定する基準として，「ふろ」に関連する全ての文脈をその情報量と考える。例えば，ふろを含む主語である「どこのふろか」，またふろを修飾する表現である「具体的なふろに関する情報」，ふろの連絡先等のふろ情報をさらに詳しく補足し説明する情報などもふろに関する生活情報の中に含まれると考える。

例えば，1月26日木曜日朝刊に「阪神大震災，兵庫県南部地震，児童・生徒290人が死亡県議会で報告」の673文字からなる記事の中に「ふろ」の用語があるが，その用語の文脈は文字数は「極めて要望の多いふろについては，避難者が週に一回のペースで入浴できるよう仮設ふろ，シャワーの設置を進めている。」の55文字からなる。従って，この記事の情報量は記事全体の文字数673の中に含まれる用語の文字数55の占める割合とすれば，その量は8.2%となる。

また，すでに示した2月9日木曜日朝刊「希望新聞」369文字情報の中に，「大阪市内の仮設住宅」の記事がある。その記事の「ふろ」に関する文脈は，主語は「大阪市内に仮設住宅」で，その主語の具体的な名称「シンワコーポレーションは」「被災者に仮の住宅を提供する。」ことが述べられ，その説明がさらに続き，具体的にその「住居は，大阪市此花区梅町2の4の114の同社敷地内で，」住宅の条件として「ふろや水洗トイレ，洗濯機なども利用できる。」ことが述べられ，「利用は……。問い合わせ，申し込みは……。」と住宅入居希望者に情報を提供している。この文脈の中で「水洗トイレ，洗濯機など」を省く全てがふろに関係する文であると考えて良い。従って，検索用語の文脈は70文字であると計算する。

さらに，2月18日土曜日朝刊の見出し「阪神大震災　府内トップを切り仮設住宅入居始まる」の記事の中に，「風呂もきれい」という表現がある。この場合，主語は「豊中市南桜塚四に完成した十三戸」の「阪神大震災の被災者への仮設住宅」である。それらの「仮設住宅への入居が十七日，府内のトップを切って豊中で始まった」こと等の情報も，この場合ふろに関する情報であるため換算しなければならない。従って，この記事の情報量は74文字と判断する。

現実に有効な生活情報量

カテゴリーAの情報でも，文字数が極端に少ない場合，しかも非常に長い記事の中で1パーセント未満の情報である場合，全体の文脈から「ふろに関する生活情報」が非常に把握し難い状態にある。従って，情報量の側からも「生活情報としての価値を持つ記事」に関する基準を作らなければならない。

毎日新聞は一行が12文字数である。そこでカテゴリーAの文脈が12文字，つまり1行以内の情報は，読者の注意から漏れる場合がある。少なくとも2行以上，つまり23文字以上の文字が必要であると思われる。しかし，見出しがある場合は，文脈が12文字以内であっても，読者の注意を十分に引く。そこで，見出しの中に検索用語に付随する単語があるものを調査する必要がある。

そこで，「ふろ」に関する生活情報では，「ユニットバス」，「シャワー」とか「銭湯」などの用語があるものを全て拾い出してみた。

また，短い記事の場合には，仮に生活情報に関する文脈が24文字以内の文字数であっても，それらの情報は相対的に読者の目に留まる。しかし，非常に長い記事，つまり文字数が多い場合，仮に2行少し越えた文字数の情報があっても，それらの情報は相対的に読者の目に留まりにくい。そこで，記事の総文字数に対して1パーセント以下の情報量の場合は，生活情報としての価値を持つ記事として判断しにくいのではないかと考えた。

以上の考え方から，現実に有効な生活情報量を，文字数24字以内の記事か総文字数に対して生活情報関連文字数が1パーセント以内の記事は情報量の基準から生活情報の価値を持たないと判断した。調査した結果では，カテゴリーAに属する記事で，文脈の情報量が23字以内か，もしくは1パーセント以内の記事は実際にはなかった。

III 「ふろ」に関する生活情報の質

「ふろ」に関する一次生活情報

震災発生直後は，生活パイプラインが崩壊しているため，ふろを沸かすことが出来ない。衛生上の理由も重なりふろに入りたいという要求が生まれ，ふろに関する生活情報も生命維持・衛生の管理に関する「ふろに入りたい」という要求から生じた生活情報となる。この生活情報を一次生活情報と定義する[2)]。

例えば，1月20日金曜日朝刊，「19日のドキュメント」の記事の中に，開業しているお風呂屋さんの情報で，「尼崎市大庄北の公衆浴場，西大島温泉……が営業再開，普通の3倍……が詰め掛ける」のようにふろが被災者の生活の中で深刻な問題になっている報道や，1月25日水曜日夕刊に震災直後の避難所の仮設ぶろの設置に関する報道で「兵庫県震災対策本部は自衛隊の協力を得て，被災者から要望の多い仮設ぶろを神戸，西宮，芦屋市の三市，計六カ所に設置することを決めた」のように，生活必需としてふろの臨時施設，仮設ぶろ設置に関する情報などがある。その他，無料での銭湯サービス，ふろ付きトレーラーハウスの無料貸し出し，仮設ぶろ開設の文字放送での情報提供，臨時のふろのための湯沸かし器や無料での銭湯，温泉地からの温泉湯の無料提供等々が記載されている。

この場合のふろの情報は，非常に緊急性のある衛生上必要な生活情報である。それらを一次生活情報のカテゴリーに分類する。こでは，「生活情報としての価値を持つ記事」Aのカテゴリーの中で，一次生活情報の質を持つふろに関する生活情報をA1とした。この情報は，生活情報で，新聞記事も毎日のように記載している。一次生活情報としのふろの記事の記載頻度は高い。

---

2) 三石博行「生活構造論から考察される生活情報と生活情報史観の概念について」情報文化論学会誌，Vol 5. No1. pp. 54-60. (1999).

「ふろ」に関する二次生活情報

生活パイプラインの復旧に伴ってふろを沸かす生活条件が整うため，緊急を要するふろに入りたいという要求は減少し，ふろに関する一次生活情報の必要も少なくなる。これらの現象は，被害地の復旧が進み，被災者の生活が避難所から仮設住宅に移動して行くことと同時に進行している。しかし，ふろに関する一次生活情報の減少によって，ふろに関する情報が全く消滅する訳ではない。人々は，生命を守る最低限の生活条件を獲得することによって，こんどは震災以前の生活レベルに復帰しようと努力する。そこでふろに関する情報もその生活者の要求に即して発生することになる。つまりふろ設備改善などの記事が記載され始める。

例えば，3月15日水曜日夕刊，見出し「阪神大震災　老人の試練，仮の新居――神戸市・東灘区」の中に，「狭いユニットバス」の記事で，仮設住宅のふろが高齢者や障害者のためには窮屈で段差があると報道されている。また，4月6日木曜日朝刊「希望新聞」の中に仮設住宅の共同ぶろに高齢者用の手すりがないことが書かれている。また，6月27日火曜日夕刊「希望新聞」の中の，「仮設住宅で自治組織作りを」の記事の中では，高齢者や障害者など車椅子使用者がふろに入れないので，区役所に掛け合って入浴バスを巡回してもらうようにしたことなどが記載されている。

また，ふろの防災対策としての機能を課題にする余裕も生まれてくる。例えば災害時のふろの活用に関する記事として，8月1日火曜日朝刊に防災の日のアンケートの結果として「おふろに水を入れておく28%」であったこと，11月8日水曜日朝刊「希望新聞」の中に，伊丹市の仮設住宅では防災用にふろに水をはっておくことを各世帯にお願いしたことが書かれている。

さらに，震災直後の生活情報の在り方を反省する中で，災害時の風呂情報の危機管理を課題にした記事も現われる。例えば，10月2日月曜日朝刊，見出し「耳より茶論」の記事の中に，大阪府公衆浴場業組合理事長が震災対策の課題も兼ねてふろマップの作成に取り組んでいることや，10月18日水曜日朝刊「企画特集希望新聞」の中に，震災直後に毎日放送ラジオがマスメディアの慣例を破ってまで，地域性に密着した生活情報，特にふろ情報を流し続けたことが書かれている。

このように，仮設住宅の風呂設置や改良，銭湯の経営問題，災害時の風呂情報にかんする対策，災害時のふろの活用に関する情報などを二次生活情報と判断し，二次生活情報の質を持つ「生活情報としての価値を持つ記事」を A2 とした。A2 の情報は一次生活情報よりも緊急性を持たないため，その頻度は低い。

「ふろ」に関する三次生活情報

最後に，レジャーや余暇を楽しむ手段としてのふろに関する生活情報を三次生活情報として考えた。そして三次生活情報の質を持つ「生活情報としての価値を持つ記事」を A3 とした。しかし，1995年1月17日から1996年1月16日までのデータベースの中から検索用語「阪神大震災 and (ふろ or ぶろ or 風呂)」によって出力した225件の記事の中からは，三次生活情報は観察されなかった。

表1 「ふろ」に関する生活情報のデータ

日付	区分	文字総数	文字数	情報量	風呂を含む見出しあり	関連記事や情報
1995.01.19	A1	603	31	5.1%		仮設ぶろ
1995.01.20	A1	1967	35	1.8%		公衆浴場に詰めかける
1995.01.20	A1	1276	55	4.3%		風呂の不足深刻
1995.01.22	A1	921	921	100.0%	入浴施設に大移動	
1995.01.23	A1	255	255	100.0%	被災者が銭湯に殺到	被災者が銭湯に殺到
1995.01.23	A1	443	85	19.2%		
1995.01.25	A1	660	161	24.4%	銭湯低料金	銭湯低料金
1995.01.25	A1	388	388	100.0%	簡易浴場建設	簡易浴場建設
1995.01.25	A1	485	485	100.0%	仮設ぶろ	仮設ぶろ
1995.01.25	A1	488	115	23.6%		洗車用地下水がふろに使える
1995.01.25	A1	1839	204	11.1%		自衛隊仮設ぶろオープン
1995.01.25	A1	331	331	100.0%	仮設ぶろ	仮設ぶろ
1995.01.26	A1	673	55	8.2%		仮設ぶろ，シャワーの設置を進める
1995.01.26	A1	461	461	100.0%	温水シャワー	避難所に手作り移動式温水シャワー
1995.01.26	A1	316	316	100.0%	自衛隊がふろを開設	自衛隊がふろを開設
1995.01.26	A1	1519	96	6.3%		自衛隊が仮設ぶろを設置
1995.01.26	A1	482	482	100.0%	深夜の浴場	姫路の健康ランド，深夜の浴場
1995.01.28	A1	1764	169	9.6%		東京，埼玉の研修所を大学受験者宿舎に提供，風呂共同
1995.01.28	A1	272	272	100.0%	温泉	鳥取県温泉地が日替わり温泉を届ける
1995.01.29	A1	130	130	100.0%	入浴料金を政府が負担	入浴料金を政府が負担を提案
1995.01.31	A1	140	79	56.4%		ふろ付きトレーラーハウスを無料貸し出し
1995.01.31	A1	553	79	14.3%		ふろ付きトレーラーハウスを無料貸し出し
1995.02.01	A1	502	502	100.0%	家庭用浴槽を設置	三洋運送の社員が家庭用浴槽を設置
1995.02.01	A1	483	483	100.0%	浴場	鳥取県温泉地が日替わり温泉を届ける，社員施設ふろを提供
1995.02.01	A1	893	358	40.1%		ふろ屋がふろで困った。公衆浴場を20円割引
1995.02.02	A1	1341	31	2.3%		小林寺拳法本部，ふろに入れる場所の紹介
1995.02.02	A1	1009	119	11.8%		真宗大谷派，ふろを用意
1995.02.02	A1	409	409	100.0%	浴場	乳幼児用のふろを用意
1995.02.02	A1	251	115	45.8%		淡路島・五島町仮設住宅，ふろ付き
1995.02.02	A1	409	409	100.0%	浴場	乳幼児用のふろを用意
1995.02.02	A1	127	115	90.6%		真宗大谷派，ふろを用意
1995.02.04	A1	932	220	23.6%		高齢者，障害者のいる家族，高野寮はふろ付き
1995.02.04	A1	854	348	40.7%	浴場，バスでふろツアー	浴場，バスでふろツアー
1995.02.04	A1	336	115	34.2%		文字放送，仮設ぶろ開設の情報
1995.02.04	A1	468	111	23.7%		避難所，すずらん，共用ぶろ付き
1995.02.04	A1	920	630	68.5%		電気ヒーターで手作りぶろ
1995.02.05	A1	580	580	100.0%	移動入浴車	移動入浴車
1995.02.05	A1	706	706	100.0%	銭湯再開	銭湯再開，復活の湯煙
1995.02.05	A1	339	339	100.0%	ふろ湯沸かし感電	ふろ湯沸かし感電
1995.02.06	A1	955	59	6.2%		仮設ぶろの設置
1995.02.07	A1	404	87	21.5%		ふろの生活情報をファックスで
1995.02.07	A1	116	116	100.0%	浴場	公衆浴場，無料開放
1995.02.08	A1	369	369	100.0%	浴場	ベビー入浴サービス，露天風呂を開放，出張シャンプー
1995.02.08	A1	369	369	100.0%	浴場	ベビー入浴サービス，露天風呂を開放，出張シャンプー
1995.02.09	A1	369	70	19.0%		シンワヒーポレーション仮設住宅提供，風呂も利用できる
1995.02.09	A1	271	271	100.0%	浴場	兵庫県，神戸市市内に仮設風呂設置，入浴サービス

1995.02.09	A1	494	70	14.2%		シンワヒーボレーション仮設住宅提供,風呂も利用できる
1995.02.09	A1	271	271	100.0%	浴場	兵庫県,神戸市市内に仮設風呂設置,入浴サービス
1995.02.10	A1	358	70	19.6%		シンワヒーボレーション仮設住宅提供,風呂も利用できる
1995.02.10	A1	1536	28	1.8%		稗田公園コミュニティー,ふろもない厳しい現実
1995.02.11	A1	1401	267	19.1%		ふろに入りたいとの住民の願いに応えるため,水道復旧
1995.02.11	A1	128	128	100.0%	浴場	赤ちゃんのふろ,無料提供
1995.02.14	A1	184	184	100.0%	浴場	関学救援ボランティア,日帰りお風呂ツアー
1995.02.15	A1	267	267	100.0%	温浴器貸し出し	電気で湯が沸かせ,温浴器を無料で貸し出し,
1995.02.15	A1	205	205	100.0%	浴場	リハビリの施設で,ふろを身体障害者,高齢者に提供,
1995.02.18	A1	542	74	13.7%		豊中市,仮設住宅入居開始,風呂もきれい,
1995.02.21	A1	271	271	100.0%	市営温水プールが浴場	温水プールが大浴場に
1995.02.24	A1	196	196	100.0%	浴場	スポーツクラブが,ふろを無料開放,
1995.02.26	A1	644	47	7.3%		仮設下宿,ふろは共同
1995.03.01	A1	642	28	4.4%		城崎町救援対策連絡協議会,神戸市二宮小に温泉2トン送る
1995.03.01	A1	911	151	16.6%		ガスがでる,なべに一杯の湯で体を洗う
1995.03.01	A1	1927	20	1.0%		午後7時まで有馬ヘルスセンターのふろは営業
1995.03.03	A1	173	76	43.9%		岐阜県,山村の空き家を1年間無償提供,ふろは修理
1995.03.05	A1	174	174	100.0%	入浴サービス	芦屋保健所で乳児の入浴サービス
1995.03.07	A1	217	217	100.0%	ふろのヒーター放置し出火	電熱ヒーターでふろを沸かし,出火
1995.03.08	A1	362	362	100.0%	温泉に無料招待	和歌山県の温泉地に無料招待ツアーバス12台
1995.03.10	A1	356	70	19.7%		ニフティサーブでふろ情報
1995.03.15	A2	1427	187	13.104%	狭いユニットバス	仮設住宅のふろが窮屈,狭いユニットバス,介護大変
1995.03.16	A1	3041	139	4.6%		入浴サービスのボランティア,行政の義務
1995.03.16	A1	3100	139	4.5%		入浴サービスのボランティア,行政の義務
1995.03.24	A1	1875	215	11.5%		ふろはボランティアグループにも開放している銭湯がある
1995.03.24	A1	352	43	12.2%		仮設住宅入居,ふろに満足
1995.03.24	A1	196	196	100.0%	浴場	障害者と家族に,おふろ屋さん介護者付き無料サービス,
1995.03.31	A1	1170	252	21.5%		神戸市,高齢者と障害者に,ふろ付き仮設住宅の申込受け付け
1995.04.06	A2	356	40	11.236%		仮設住宅問題,ふろに手すりがない
1995.04.10	A2	628	123	19.586%		ふろの生活用水の供給システムが急務
1995.04.11	A2	628	123	19.586%		ふろの生活用水の供給システムが急務
1995.04.26	A1	337	72	21.4%		仮設学生寮が芦屋に完成,共同ふろ付き
1995.04.26	A1	1053	60	5.7%		テント生活,ふろ共同,
1995.04.27	A1	1340	25	1.9%		失業中の家政婦,避難所から仮設住宅へ,避難所ではふろ代の現金が必要
1995.05.03	A1	1556	87	5.6%		仮設学生寮,関学近くに完成,ふろは共同
1995.05.03	A1	1556	87	5.591%		仮設学生寮,関学近くに完成,ふろは共同
1995.05.06	A1	567	127	22.4%		芸術酒場再建,ふろも備えてある
1995.05.07	A1	368	64	17.4%		神戸市,カトリック中山協会,週一回仮設ふろを路上生活者に解放
1995.05.08	A1	1204	1204	100.0%	香炉園温泉存続の危機	香炉園温泉存続の危機,震災で施設がめちゃくちゃに破壊
1995.05.09	A1	364	45	12.4%		仮設学生寮入寮者を募集,ふろ共同
1995.05.09	A1	364	45	12.4%		仮設学生寮入寮者を募集,ふろ共同
1995.05.12	A1	717	717	100.0%	避難所にレンタルシャワー	避難所にレンタルシャワー
1995.05.16	A1	489	162	33.1%		神戸市灘区ボランティアセンター,入浴サービス介護ボランティア募集
1995.05.17	A1	1212	104	8.6%		ケア付き仮設住宅,共用ふろ付き
1995.06.27	A2	393	121	30.789%		仮設住宅で自治組織,車いすの人のため区役所の入浴バスしてもらう
1995.06.28	A1	223	123	55.2%		神戸市,仮設住宅入居募集,共用ふろ
1995.07.01	A1	418	418	100.0%	銭湯のお客さんに笑顔	西宮市,銭湯営業再開,
1995.07.16	A1	540	540	100.0%	銭湯「幸せ湯」が……本格営業開始	銭湯「幸せ湯」が……本格営業開始
1995.07.27	A2	1158	58	5.009%		仮設住宅で高齢者孤独死,西宮市仮設住宅の実態調査,ふろば共同

1995.08.01	A2	349	92	26.361%	銭湯のお客さんに笑顔	西宮市,銭湯営業再開,
1995.08.31	A2	1329	664	49.962%	ふろには常に水	ふろには常に水
1995.09.18	A1	1114	38	3.4%		甲子園,仮設住宅,浴室は共同
1995.09.28	A2	687	121	17.613%		震災直後,全盲のマッサージ師,ふろに残っていた水でしのぐ
1995.10.02	A2	1855	1855	100.00%	おふろマップ作り	大阪府公衆浴場業界組合,おふろマップ作り
1995.10.17	A2	2740	35	1.277%		震災直後はふろ,身近な生活情報が不可欠だと痛感した
1995.10.18	A2	791	129	16.308%		毎日ラジオ,被災者向けの放送を続けた,おふろ情報,
1995.10.19	A2	700	170	24.286%		仮設住宅で快適な生活を工夫,ふろも工夫次第で快適になる
1995.11.08	A2	408	213	52.206%		仮設住宅,防災用にふろ水
1995.11.18	A2	3621	125	3.452%		反省点,海上自衛隊艦船の施設提供,ふろの利用できた
1995.12.01	A2	781	85	10.883%		ボランティア募集,ボランティアの家,ふろあり
1995.12.04	A2	189	137	72.487%		民間放送31局のチャリティー委員会,ふろ付き巡回バスを送る
1995.12.12	A2	398	101	25.377%		訪問介護,便器に座ってシャワー,冬は寒い,
1995.12.14	A1	518	518	100.00%	城崎町湯島の旅館が……オープン	城崎町湯島の旅館「緑風閣」が……オープン
1995.12.23	A2	546	55	10.073%		国土庁,災害時に水不足,ふろの水利用を研究
1996.01.11	A2	630	630	100.00%	移動入浴車を寄贈	石原プロモーション,渡哲也,移動入浴車を寄贈
1996.01.12	A2	356	356	100.00%	地下収納庫開発,ふろ10杯分備蓄	地下にふろ十杯分の備蓄,電気温水機と水タンク,積水ハウス
1996.01.14	A2	491	48	9.776%		ふろに水をため置き
1996.01.15	A2	300	36	12.000%		ふろの残り湯で洗濯,

IV 記事分析表の解釈と生活情報の質の時間的変化

カテゴリーAの記事件数とその他のカテゴリーの記事件数

前文検索によって出力された225件の記事から「生活情報としての価値を持つ記事」Aのカテゴリーに該当し，かつ定量的な基準を充たしたものはする記事件数は115件である。その中で，A1 の記事件数は92件で，A2 の記事件数は22件である。また，カテゴリーBと判断された記事件数は58件で，カテゴリーCと判断された記事件数は29件で，カテゴリーDと判断された記事件数は23件である。

ふろに関する「生活情報としての価値を持つ記事」Aのカテゴリーの入る記事のみがここでは分析の対象となる。

これらのデータ A1 に関する情報の分析から，新聞が提供したふろに関する生活情報は，被災者が必要とする情報，例えば入浴出来るふろ屋の住所や入浴時間などの情報や近辺の銭湯のマップ等の具体的でローカルな情報ではなかった。

ふろに関する生活情報の時系列グラフ

1995年1月17日から1996年1月16日までの一年間の「生活情報としての価値を持つ記事」Aのカテゴリーの記事は，一次生活情報の A1 とし，二次生活情報の A2 とに分類できる。図1と図2に示すように，一年間を二週間毎に区分して，ふろに関する一次生活情報と二次生活情報の記事の発生件数を調べて見ると，3月中旬まで A1 の記事が殆どすべてで，始めて A2 の記事が登

図1　A1 と A2 の記事件数縦断グラフ

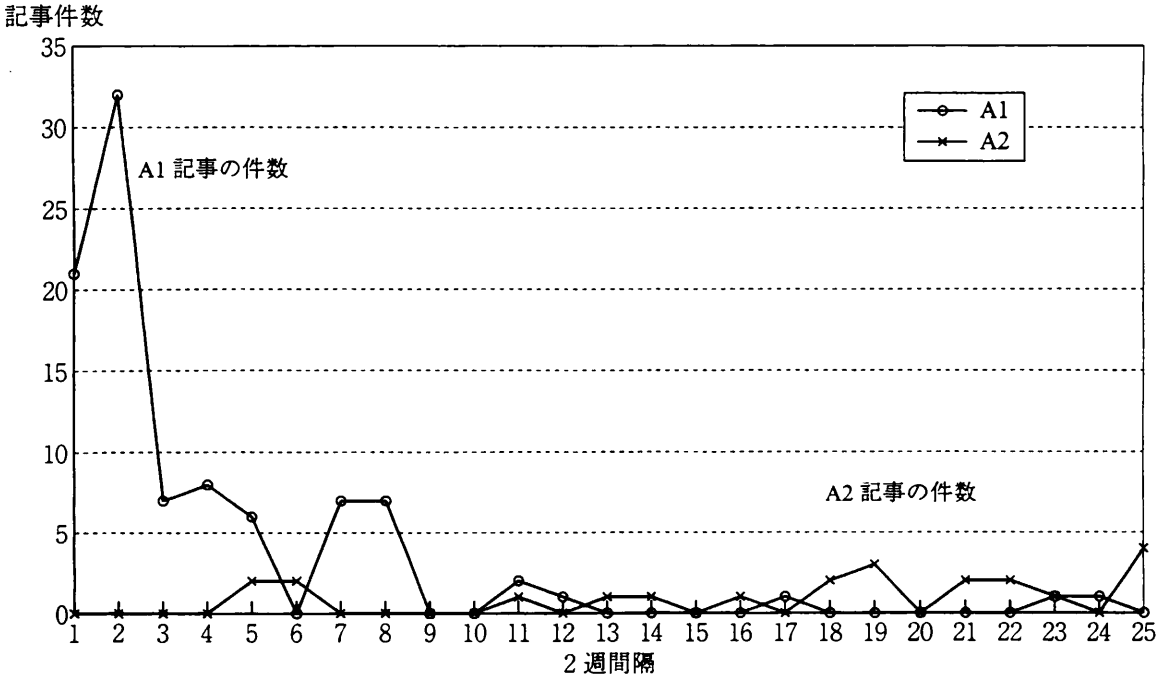
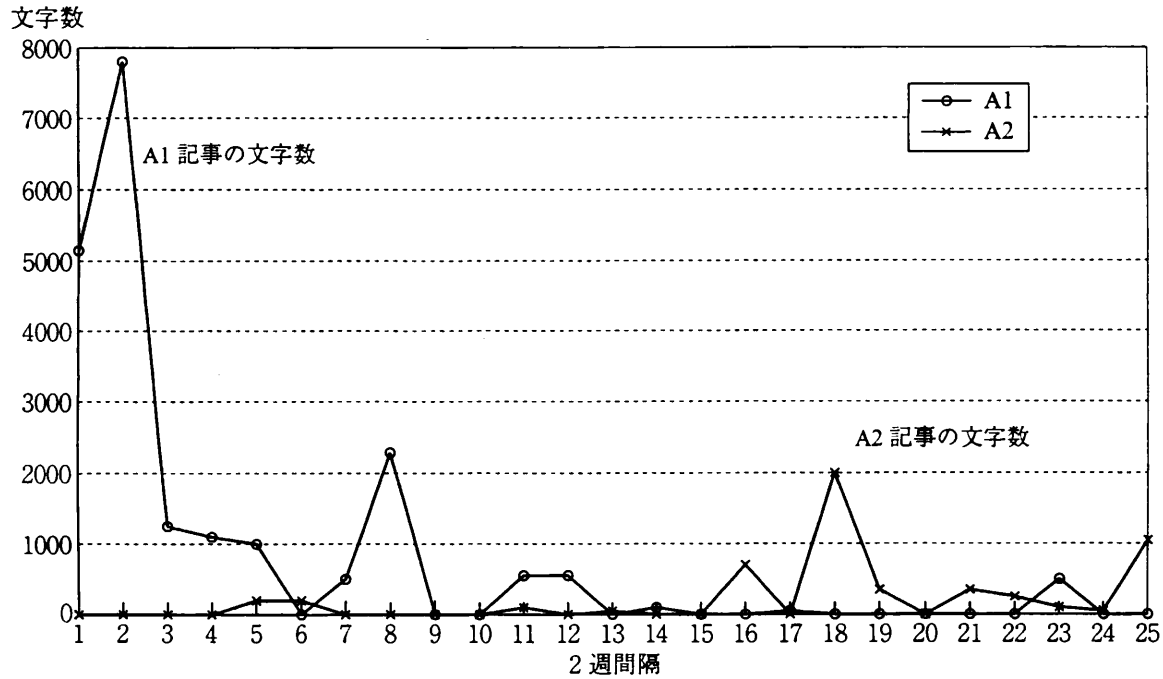


図2　A1 と A2 の文字数縦断グラフ



場するのは3月15日である。また，この期間のふろに関する記事の頻度は高く，2月15日までにほぼ毎日1回以上 A1 に関する記事が記載されている。2月16日から3月31日までは約一週間に2，3回の割で A1 と A2 の記事が記載されている。4月からふろに関する生活情報の記載が少なくなり，6月から仮設住宅のふろの情報など，A2 の記事が主流を占める。また，8月になってから，災害時のふろの活用の仕方など防災対策としてのふろの情報などの記事が多く，A1 の

記事はなくなってしまう。

一次生活情報と二次生活情報の縦断変化の原因

例えば，ガスは2月16日までの復旧率は33％で，3月10日までに80％となり，4月11日に完全復旧される。また，水道は震災発生1ヵ月後の2月17日にも神戸，西宮，芦屋市などの17万5千戸が断水しており，2月28日で復旧率は97％にまで回復したが，完全復旧は4月17日であった[3)]。ふろに関する一次生活情報は，生活パイプラインの復旧に即して充たされていったので，4月17日以降は急激に減少する。つまり，震災直後は生活ライフラインは破壊されているため，ふろの一次生活情報が多く発生する。

生活ライフラインの復旧率とともに，緊急を要し，生存に関わる一次生活情報の必要性は減少しつづけ，次第に，個人差をもちながらも以前の生活条件に近づこうとする生活条件の改善課題が問題にされる。復旧という行為が震災以前の生活条件を取り戻そうとする行為で，それらは経済的な個人差を前提にしているため，最低限の条件で満足する人が全てであるとは限らない。そこで，ふろの改善の課題が相対的に重要な課題として取り上げられる。例えば「安全で，心地よいふろに入りたい」という要求が生まれ，それに関する二次生活情報が発生する。

まとめ・問題提起

1. デジタルデータを全文検索すると，情報を漏れなく調べることが出来るが，ごみ情報も混入することになる。そこで，目的に合わせて必要な情報を選別する必要が生じる。この小論では，ふろに関する生活情報の具体的な例を示しながら，4つの段階を示し，「生活情報としての価値を持つ」記事の選別の基準を示した。また，単に記事の内容だけでなく，記事が含む文字数や，記事全体の文字数の中での割合も「生活情報としての価値を持つ」記事の判断基準になることを示した。
2. ふろに関する生活情報を調べると，その情報の質が震災から時間を経るに従って変化することが理解できた。震災直後は生命や健康維持に直接関係する緊急性のある情報が必要とされ，時間が経つと，緊急性を帯びた情報は少なくなる。これを生活情報の構造から分析すると，震災直後には一次生活情報が多く発生し，震災から時間が経つことによって一次生活情報は少なくなり，二次生活情報が発生し始める。
3. 新聞のふろの情報の内容であるが，新聞記事の中に記載されていた毎日放送ラジオが提供した情報のように，特にふろに関する一次生活情報，具体的には震災直後に入浴出来る銭湯の住所やマップなどの情報，すぐに被災者が必要としていた情報を敏速にまた頻繁に提供していたとは言えない。その理由は，一般に，マスコミは災害地の住民のみでなく国民全体に災害情報

3) 震災復興調査研究会編集『阪神・淡路大震災復興誌 第1巻』，兵庫県 21世紀ひようご創造協会発行，1997.3，pp. 567-603.

を提供する立場を持っており，被災者が必要とする極めてローカルな生活情報に紙面を沢山割くわけにはいかない。また，間違った情報を出した場合の社会的混乱やそれによって生じる被害が大きいため，新聞情報は常にその正確さが問われ，信頼性の薄い情報を出すことを防止している。そのため，特にローカルな生活情報，例えばふろに関する生活情報などに関して，緊急時に必要な敏速な情報伝達が出来ない。そこで，この新聞の現実の社会的役割とそれゆえに生じている緊急時の情報伝達機能の限界などを前提にして，災害時の生活情報の伝達に関する社会情報システムを課題にする必要がある。

（受付　2000年1月20日）